



令和3年10月1日

東京都千代田区四番町5番地3
 科学技術振興機構（JST）
 Tel：03-5214-8404（広報課）
 URL <https://www.jst.go.jp>

未来社会創造事業（探索加速型・大規模プロジェクト型） 令和3年度新規研究開発課題の決定について

JST（理事長 濱口 道成）は、未来社会創造事業（探索加速型・大規模プロジェクト型）の令和3年度の新規研究開発提案における新規研究開発課題および研究開発代表者を決定しました。

本事業では、社会・産業ニーズを踏まえ、経済・社会的にインパクトのあるターゲットを目指す技術的にチャレンジングな目標を設定し、POC（概念実証：実用化が可能かどうか見極められる段階）を目指した研究開発を実施します。

令和3年度の提案募集では、産官学各界より291件の応募がありました。

募集締切後、書類選考と面接選考を実施し、各重点公募テーマ、技術テーマにおいて以下の通り採択を決定しました。

＜探索加速型 重点公募テーマ（探索研究）＞	採択数
「次世代情報社会の実現」領域（運営統括：前田 英作） ・ Human centric デジタルツイン構築による新サービスの創出	6件
「顕在化する社会課題の解決」領域（運営統括：高橋 桂子） ・ 持続可能な環境・自然資本を実現し活用する新たな循環社会システムの構築	6件
「個人に最適化された社会の実現」領域（運営統括：和賀 巖） ・ 場面や状況により変化するひとの幸福な状態を再現性高く計測・評価する技術に基づく新サービスの創出	6件
「持続可能な社会の実現」領域（運営統括：國枝 秀世） ・ 社会の持続的発展を実現する新品種導出技術の確立	3件
「世界一の安全・安心社会の実現」領域（運営統括：田中 健一） ・ 心理状態の客観的把握とフィードバック手法の確立による生きがい・働きがいのある社会の実現	3件
「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域（運営統括：橋本 和仁） ・ 「ゲームチェンジングテクノロジー」による低炭素社会の実現	15件
「共通基盤」領域（運営統括：長我部 信行） ・ 革新的な知や製品を創出する共通基盤システム・装置の実現	7件
＜大規模プロジェクト型 技術テーマ＞	採択数
・ 安全・安心かつスマートな社会の実現につながる革新的マイクロ波計測技術（運営統括：大石 善啓）	1件

事業および選考・採択結果の詳細は下記ホームページを参照してください。

URL <https://www.jst.go.jp/mirai/>

＜添付資料＞

参 考：未来社会創造事業の概要

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 未来創造研究開発推進部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

大矢 克 (オオヤ マサル)

Tel : 03-6272-4004 Fax : 03-6268-9412

E-mail : [kaikaku_mirai\[at\]jst.go.jp](mailto:kaikaku_mirai[at]jst.go.jp)

未来社会創造事業の概要

未来社会創造事業の概要および各重点公募テーマ・技術テーマの詳細内容は、事業ホームページ（<https://www.jst.go.jp/mirai/>）にて公開しています。

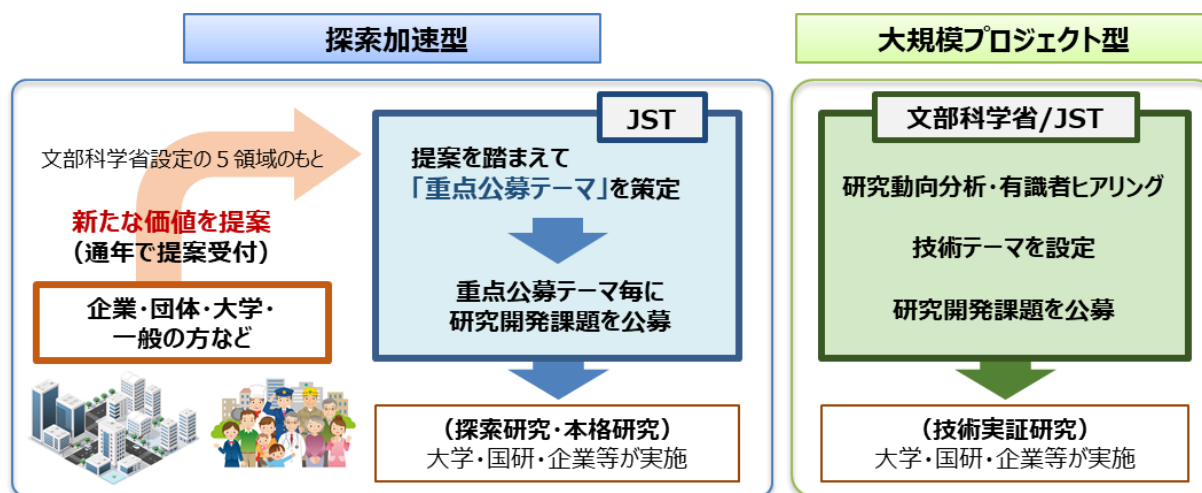
事業概要

未来社会創造事業は、社会・産業ニーズを踏まえ、経済・社会的にインパクトのあるターゲット（出口）を明確に見据えた技術的にチャレンジングな目標を設定し、戦略的創造研究推進事業や科学研究費助成事業などの有望な成果の活用を通じて、社会や産業において、研究開発成果の実用化が可能かどうか見極められる段階（概念実証：POC）を目指した研究開発を実施します。

本事業は異なる2つのアプローチで構成されます。

探索加速型では、探索研究から本格研究へと段階的に研究開発を進めます。探索研究はスモールスタート方式^{注1)}で多くの斬新なアイデアを取り入れ、本格研究に向けてアイデアの実現可能性を見極めることとします。研究開発課題は、文部科学省が定める領域^{注2)}を踏まえ、JSTが提案募集などを通じて設定した「重点公募テーマ」に基づき公募します。

大規模プロジェクト型では、科学技術イノベーションに関する情報を収集・分析し、現在の技術体系を変え、将来の基盤技術となる「技術テーマ」を文部科学省が特定し、その技術テーマに係る研究開発課題に集中的に投資します。



本事業ではステージゲート方式^{注3)}を導入します。探索加速型においては、探索研究から本格研究へ移行する際や、本格研究で実施している研究開発課題を絞り込むことで、最適な研究開発課題の編成や集中投資を行います。大規模プロジェクト型においては、民間投資の誘発を図るため、研究開発途上からの企業などの資金導入を求めます。

注1) スモールスタート方式：研究開発課題の採択時には比較的少額の課題を多数採択する仕組み

注2) 領域：重点公募テーマの設定に当たっての領域（区分）

注3) ステージゲート方式：研究開発を複数のステージに分け、各ステージでの評価に基づいて研究開発課題の続行または廃止を決定する仕組み